

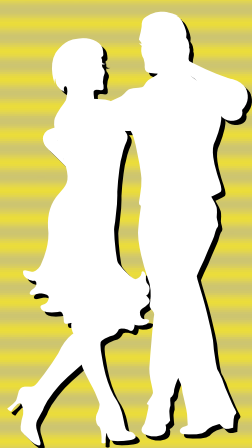
Dance Dance Dance



平成28年度定時社員総会
及び理事会・全国代表者正会員会議

WDSF公認
第18回東京オープンダンススポーツ選手権

東京都ダンススポーツ連盟創立40周年記念祝賀式



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2016 No. 80



40周年からの新たな一歩

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF)

専務理事 山田 淳



JDSFは創立40周年を迎えました。JADA（日本アマチュアダンス協会）発足以来、ダンスの社会的地位向上、国体／オリンピック参加を目指し、地域のサークル／組織を整備しつつ普及に邁進した結果、大きな組織に成長しました。

〈ダンス文化再構築に向けて〉

ところが、今は愛好者の高齢化で60歳以上が75%超、特に70歳以上が多いことからダンス人口が毎年減少、ダンス教室数も急激に減っています。この状況に対応すべく「ビジョン2024」*を策定し、各部門で中高年層への対応や若年層へのダンス普及施策に挑戦しています。

皆で力を合わせた結果、長年ダンス普及の妨げになっていた風営法がついに改正され、本年6月23日から一般の飲食店でもダンスが可能になりました。これにより生活に密着した非競技系のダンス普及の道が大きく開けます。ディナーの合間にダンスでコミュニケーション。海外観光客が増える中、街でのダンスの場が増えることで経済効果も期待できます。新型商業施設でダンスコンテンツに興味を持つ資本が動き出す中、私達のペアダンスを含めてもらう活動など、日常のダンスの場作り、街作りにもJDSFとして協力していきたいと思います。

良い音楽が流れたら身体が動き、何処でも踊ってしまような日本にしたい。そのためにJDSF会員一人一人がダンススポーツ・アンバサダーとして率先して街で踊り、ダンス文化を広めて行こうではありませんか。

〈オリンピック・パラリンピック／国体参加の目標〉

実現すれば、国民にダンススポーツの素晴らしさをアピールできるばかりでなく、学校でのクラブ活動や学校対抗ができ、若年ダンス人口の増大やスポンサーの拡大、関連業界全体を活性化させる特効薬ですから、何としても達成したいものです。

JADA発足の2年前に東部学連とそのOB会によって発表された「アマチュアダンス界改革ビジョン」では、

- ①できる限りより客観的要素を盛り込んだ詳細な審査基準（中略）を確立。
- ②参加するスポーツ、及び見るスポーツとして国民各層に高い社会的評価を獲得。
- ③アマチュアの全国統括団体を組織し、日本体育協会に加盟し、国体種目、オリンピック種目としての条件を獲得。

などが提言され、JDSFは創立以来この大方針に基づき、揺らぐことのない信念でオリンピック・スポーツとしてのダンスの発展を追求してきました。三笠宮杯や東京オープンのような見るスポーツとしての確立、マスメディアとの協調、客観評価のための新審判システム開発、ジュニア層からの選手強化施策などもその一環です。

〈PD部門の整備〉

当時はオリンピックがアマチュアスポーツでしたからアマ／プロ区別は重要でしたが、現在はその意味や実体が不明確になり、ダンス普及のための公益法人がアマ／プロと称して異なる意思決定では目標が達成できません。

2020年の東京オリンピック追加競技にダンススポーツが立候補した際、その条件となる客観評価（新審判方式）について、一部のプロの方々が（ボールルームダンスで）大事にしたい芸術評価と違うという理由でオリンピック参加に反対という趣旨のご意見をいただきました。同じフロアで踊ることはできてもジャッジ基準が大きく異なるという状態は、例えばオリンピックボクシングかプロボクシングかという種目の違いを超え、スポーツの評価（客観評価）か芸術の評価（主観評価）かという決定的な差異に発展していた訳です。

従って、スポーツとしてオリンピックや国体を実現したい人、つまりダンススポーツ競技に賛同する人は、アマプロ皆で団結して早期に実現すべきと考えるようになりました。国体に向かうには、IF (IOC承認の国際競技連盟：WDSF) との関係の他、アマプロ共通ルールでの統括が必要です。

今回、新たに教室関係者やプロ実力者を迎え、PD部門（プレミア・ディビジョン）を整備したのは、国体の早期実現を目指すとともに、ダンス人口の急減に歯止めをかけるべく、普及の要となる教室の事業について、新たなJDSFのしくみとして連携・支援し、強力に普及を促進する必要があるためです。

今後、円熟したレベルが期待されるダンススポーツのPD部門競技「プレミアリーグ」の開催に当たり、公正なジャッジが担保されるよう、客観評価の深化や第三者評価のしくみなど検討中です。このような理念と基本方針に賛同される方々とともに、皆で力を合わせて将来のダンススポーツの発展を目指したいと考えています。

※「ビジョン2024」は8頁参照



WDSF公認 世界ランキングポイント取得対象競技会

第18回 東京オープンダンススポーツ選手権

2016年6月5日(日)／駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

我が国最大のダンススポーツ国際大会である東京オープンダンススポーツ選手権は第18回を迎え、今年は駒沢オリンピック公園総合運動場体育館での開催となり、世界トップレベルのアスリートの競技を堪能しようと館内は満員の観客で熱気溢れる大会となりました。

メインのWDSFインターナショナルオープン（但しユース年齢16歳以上）のスタンダード・ラテン及びWDSFオープンシニアⅢ（本年末で55歳以上と50歳以上）スタンダードの3競技がWDSFランキングポイント取得対象競技となり、さらにU-23（本年末年齢で13歳以上23歳以下）オールジャパンダンススポーツカップのスタンダード・ラテンの合計5競技が実施されました。

朝8時15分、佐倉文彦大会実行委員長の開会宣言、続いて山口剛競技長の諸注意があり競技はスタートしましたが、WDSFのジャッジシステム運用上の不調から途中約1時間の遅れが生じたことは、今後の運営について大きな反省点となりました。ダンスタイムの縮小等で関係者のご協力をいただき、最終的にはタイムテーブル通りに終了しました。

グランドセレモ



今年もShall We ダンスタイムは開催され、多くの観客の皆さまがフロアでダンスを楽しみました。



(株)ブルボンの山崎常務、小保方氏とブルボンDSTの選手及び齊藤会長

ニーに先立ち、坂本省一熊本県ダンススポーツ連盟会長から熊本地震の状況報告と支援に関して「熊本地震から50日あまり、現地では、いまだに多くの方々が避難生活を余儀なくされている。非常に多くの皆様のご支援や励ましがどれだけ心強く、有りがたかったか！ 必ず熊本は復興します。万分の一もお返しはできませんが、この場を借りて厚く御礼申し上げます」と挨拶がありました。



坂本省一
熊本県DS連盟会長

入場行進、国旗掲揚、国歌斉唱の後、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）を代表して齊藤斗志二会長は「国内外のトップクラスの選手、ご来場の皆様、ようこそいらっしゃいました。改正風営法は6月23日から施行されダンスオールナイト、ダンスオールフロアも可能になります。そして、JDSFはWDSFと共に2024年オリンピックの追加種目を目指します」と挨拶されました。



齊藤斗志二JDSF会長 佐倉文彦実行委員長



大人気のブルボンのお菓子

活躍した日本選手たち



八谷和樹・皆川 円組
(千葉県) St9位・La8位



藤井創太・吉川あみ組
(ブルボンDST/千葉県) St10位・La11位



渡辺安登・石垣真衣組
(ブルボンDST/千葉県) St11位



山田恭平・秋山彩織組
(東京都) St11位



久保田弓椰・ヴィクトリア セルミヤギナ組
(北海道) St8位・La7位



大西大晶・大西咲葉組
(ブルボンDST/富山県) St7位・La10位



アンドレス・リーフ&
クリスティン・ヴァハ組
Andres Liiv/Kristin Vaha (エストニア)



ヴォロディミール・リヤトフ&
ヴェロニカ・ミシェコ組
Volodymyr Lyatov/Veronika Mishko (ウクライナ)

WDSFインターナショナルオープン スタンダード

今回は香港のグランドスラム戦と重なりましたが、世界ランキング21～39位のカラベレッセ組、リーフ組、リヤトフ組、ルシート組など世界の強豪が出場し熱戦が繰り広げられました。リーフ組が若さあふれる踊りで館内を魅了し全5種目に1位を獲得し、前回東京オープン第3位から今回はチャンピオンに輝きました。日本選手の決勝進出はならず、大西大晶・大西咲葉組(ブルボンDST)が最高位の第7位となりました。



ダニエレ・ルシート&
ニコル・カルティジャーノ組
Daniele Ruscito/Nicole Cartigiano (イタリア)



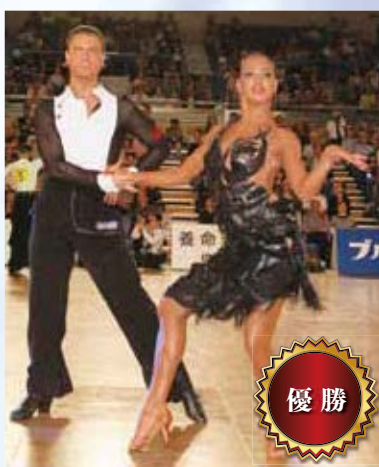
シモーネ・カラベレッセ&
ルチア・カファールニャ組
Simone Carabellesse/Lucia Cafagna (イタリア)



シモーネ・サントーロ&
ティツィアーナ・モルジーリョ組
Simone Santoro/Tiziana Morgillo (イタリア)



ダヴィデ・モレリ&
カロリーネ・キェルケガールド組
Davide Morelli/Caroline Kjeldgaard (デンマーク)



アンドレイ・グセフ&
ヴェラ・ボンダレーワ組
Andrey Gusev/Vera Bondareva (ロシア)



ヴィト・コッポラ&
クリスティーナ・ガリフルーナ組
Vito Coppola/Kristina Garifullina (イタリア)

WDSFインターナショナルオープン ラテン

世界ランキング7位で香港のグランドスラムに出場(第5位)のグセフ組が競技に間に合うか心配されましたが、無事出場し実力を発揮して全審判員から全種目1位を獲得しチャンピオンに輝きました。ラテンも日本選手の決勝進出はならず、日露国際カップルの久保田弓椰・ヴィクトリア組が第7位となりました。



ニコライ・ルト&
マルタ・コチク組
Nikolaj Lund/Marta Kocik (デンマーク)



アルチュール・バランディン&
アンナ・サリタ組
Artur Balandin/Anna Salita (ドイツ)



アダム・ヴァシーナ&
タグマラ・ノワク組
Adam Vasina/Dagmana Nowak (ポーランド)



ディミトリ・マルチェンコ&
アナスタシア・リバルコ組
Dmitry Marchenko/Anastasia Rybalko (アゼルバイジャン)

WDSFオープンシニアⅢスタンダード

準優勝



石川誠一・石川美智子組
(新潟県)



第3位

古澤誠・緑谷朱三江組
(愛知県)

優勝



今井正幸・今井由香組 (東京都)

「WDSFのシニアの大会が東京で開かれることはシニア選手にとって大きな喜びであり、その中で優勝できたことで喜びもひとしお。今年はこの後、7月にはイタリアのシニアⅢ世界選手権、8月には去年準優勝できたジャーマンオープンにも出場を予定していますので、今日は幸先良い成績で良かった。これからもゴールを決めず、体力が続く限り頑張りたいと思います！」

U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ ラテン

リン・ユン・チェン&リン・セレナ組は昨年の東京オープンではWDSFユースラテン第3位に輝きましたが、今年はU-23ラテンで優勝です。

表彰式



優勝



リン・ユン・チェン&リン・セレナ組

Lin Yung Cheng - Lin Serena (台湾)

「来日は4回目。16歳と17歳です。昨年の東京オープン・ユース・ラテンでは3位だったので、今年は優勝できてとても嬉しい。リーダーは9歳から、パートナーは7歳から始めました。私たちは3年前から台湾のジュニア・ユースチャンピオンです。台湾はジュニア・ユースの選手が少なくライバルもいないため、日本の競技会に出場するのを楽しみにしています」

U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ スタンダード

濱田琉衣・稲村百香組

(ブルボンDST / 栃木県)

「私たちは高1と中3です。今日は上の年令区分への挑戦でしたが、優勝できてとても嬉しいです。今年はイタリア合宿に行ってきました。海外の選手は身体も大きくパワーもあり表現力もあるので圧倒されますが、とても良い刺激になり、私たちも頑張ろうという気持ちになりました！」

優勝



濱田琉衣選手はジュニアダンス界で活躍の濱田3兄弟の長兄、稲村さん共にジュニア強化指定選手ですが、3種目に1位を獲得し優勝です。

表彰式



毎日新聞社杯 大学・クラブ対抗団体戦



優勝 東京大学 / 準優勝 ダンスチームみやおか / 第3位 獨協大学

U-23スタンダード・ラテン両部門の成績上位2組の得点を各大学またはサークルごとに集計し毎日新聞社杯が贈呈されました。

ご来賓の皆様



★ジュニアアスリートクラブ優秀選手表彰式

JDSFでは、ジュニアユースアスリート会員のジュニア選手に対して1年間の競技活動や実績に基づき優秀選手を毎年表彰しています。2015年度最優秀選手は五月女



光政・五月女睿佳組 (栃木県) と石垣和宏・中村安里組 (千葉県) に輝きスーパーダンス・ジャパン(株) 清水長寿社長から副賞が贈られました。

★ジュニアダンススポーツアンバサダー

ダンススポーツの楽しさを広めるため様々なイベントでPR活動を行うジュニア大使です。

チームリーダー
馬谷マリアちゃん



優勝コメント

東京オープン スタンダード



アンドレス・リーフ&クリスティン・ヴァハ組 (エストニア)

(6月4日の指導員講習会のスタンダード講師を務めました)

昨年初めて日本の競技会に参加してとても素晴らしい経験をしたので、今年もこの大会にエントリーしました。長いフライトで少し疲れていますが優勝できて大変嬉しい。私たちはエストニア代表選手ですが、3年前に拠点をイタリアに移しました。ディアブロのメンバーでコーチはベネデットとクラウディアです。カップルを組んで7年以上になります。リーダーがダンスを始めたのは5歳。両親がダンスの先生です。パートナーはアイスダンスの上達のためにダンススポーツを始めたのがきっかけで、本格的に始めたのは17歳です。ダンスはスポーツですが私たちはエレガントでカジュアルなダンスを踊りたいと考えています。今回、日本の観客の温かい応援にはとても感激しました。来年も是非参加したいと思います！

東京オープン ラテン



アンドレイ・グセフ&ヴェラ・ボンダレーワ組 (ロシア)

今日は優勝できて大変嬉しい。昨日、香港で開催されたグランドスラム・ラテンに出場していて結果は第5位。今朝7時に日本に到着しましたが、少し休みましたのでそれほど疲れはありません。リーダーは25

歳、パートナーは23歳です。私たちがカップルを組んだのは昨年の7月でまだ1年経っていません。今年の2月から競技会に出場していて今日が7回目の大会出場です。

私たちは2人のコネクションと音楽性を大事にしている、感情豊かなストーリー性のあるダンスで観客にアピールしたいと思っています。僕は日本の競技会は4回目になりますが、日本の観客はいつも熱い応援をしてくれますので、とても気持ちよく踊ることができて感謝しています！

第22回全国公認指導員・審判員ダンススポーツコンGRES

6月4日(土)、Bumb東京スポーツ文化館で開催されました。中道俊之普及部長の挨拶で始まりました。この日はコンGRES320名と指導員養成講座140名の合計460名の参加となりました。



中道普及本部長

6月3日に来日した講師のリーフとヴァハ (スタンダード優勝)は試合の前なのに飛行機から降り立って、いの一番に講義内容を心配し、終了後は講習の内容をひとつ一つ、良かったこと悪かったことを確認していましたが、「心配することないよ。指導部役員に聞いてごらん？」3人で会場に戻ったら、指導部の人達が絶賛、「皆で明日の試合でお返しの応援をしたい」と言われ、一安心でした。

ラテン講師のバランディンとサリータ (ラテン第4位)は、ヨーロッパの選手でアマチュアではあるが、ダンスに対するプロ意識が徹底している。日本の指導員受講者に堂々と講義をして満足させる講義内容・説

明力は立派。彼らは、若くてお金もないし、各地を転戦して時間も無い。東京の事もほとんど知らないのに驚かされましたが、未来のある若者なので、今後が楽しみです。

(国際部 嶋田昌生)



講習風景



講師を務めたリーフとヴァハ (右)、バランディンとサリータ (左)

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF) 平成28年度定時社員総会

平成28年度定時社員総会が6月26日(日)、14時から東京ファッションタウンビル研修室において開催されました。

冒頭この1年に他界された西田善夫前理事、小山明正会員(東京都)に対して黙祷が捧げられました。続いて齊藤斗志二会長から「国体・オリンピック参加に長年の課題として取り組んでいる。1997年にWDSFはIOCからオリンピック競技種目団体として正式に承認されており、JDSFもその傘下にある。2024年オリンピック追加種目実現についても期待のほどがローマのWDSF年次総会でも話された。そのような中で6月23日から改正風営法によりダンス教室は規制から外れ、ダンス営業は照明による規制が一部残るが大幅に自由化された。ダンスはAll-night、Anytime、Everywhere、さらにAll Family、All Generationへ浸透させていく環境が整った。本日の会議は新しいダンスの世界を開く会議となる」と挨拶されました。そして議長に福島県の長谷川守夫正会員が選出され、審議に入りました。



齊藤斗志二会長

第1号議案 平成27年度事業報告及び決算の件

金子和裕常務理事より事業報告、内山雅允事務局長より決算の説明、鈴木一夫監事から監査報告があり、賛成多数で可決されました。

第2号議案 定款改正の件

岸尾政弘総務部長よりPD関連部門の設置等の目的により、定款第6条及び第14条に特別会員を加える改正について説明があり、賛成多数で可決されました。

第3号議案 会費に関する規程改正の件

中道俊之組織委員長より、一般会員及び正会員の会費を300円から500円に、特別会員の会費は2000円と規程する議案について説明があり、賛成多数で可決されました。

第4号議案 理事追加選任の件

山田淳専務理事より、JBDFと3年前から委員会を設けて協定書を結ぶべく検討してきたが、考え方の違いから異なる道を歩むことになり、5月29日の理事会で承認されたPD関連部門の設置等に対応するため、4月にJBDFを退任された田邊重光氏の学識経験者として理事追加選任の議案説明があり、賛成多数で可決されました。暫し休憩の間に臨時理事会が開催され副会長に就任されたこと。また、福井県DS連盟が県体協に加盟したこともあり仮加盟から正加盟に昇格の報告が山田専務理事からありました。(40番目の都道府県体協加盟となります)

第5号議案 平成29年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の選任の件

金子和裕常務理事より提案があり、高橋和代氏(埼玉県)が選挙管理委員長に、吉川英司氏(茨城県)、岸尾政弘氏(事務局)鴻巣久枝氏(事務局)の3名が選挙管



理委員に選任されました。

以上で議案の審議は滞りなく終了しました。



秋元司(顧問)衆議院議員

報告事項1

山田専務理事より、PD関連部門の設置とそれに伴う諸規定の制定について報告がありました。



報告事項2

金子和裕常務理事より、平成28年度補正予算の策定について報告がありました。



報告事項3

佐倉文彦理事より、個人情報保護規程の策定について説明がありました。平成28年10月1日から施行されます。

・田邊重光理事副会長の挨拶

JBDFの会長になった時に早く日体協加盟、国体参加をすべきと進めてきたが残念な結果となった。立派な組織であるJDSFの理事就任、皆様から受入れていただき心から感謝。一生の運命と思って、PD部門の為に余生を全力で持って尽くしていきたい。



・市原則之理事(元JOC副会長)の挨拶

スポーツとしての団体は、競技力向上もあるが一番大切なのは組織のガバナンス。組織や派閥が、小競り合いをしていれば、スポーツとしての素晴らしさは失われる。田邊会長の話を伺って胸が熱くなった。忘れてはいけない3つの「F」即ちファイトイングスピリッツ、フェアプレイ、その後に必ず生まれるのがフレンドシップ、相手を敬うことである。スポーツマンシップを忘れず競技を追求していけば必ず、国体、オリンピック種目になっていくと信じている。



全国代表者正会員会議

6月25日（土）、東京新宿の京王プラザホテルにおいて全国代表者正会員会議が開催されました。岸尾政弘総務部長の司会進行で始まり、山田淳専務理事から「活動理念と中長期方針 PD部門整備と基本方針」について説明がありました。ダンススポーツ界最大の問題点として、ダンス人口の高齢化と減少、国体参加やオリンピック種目化に向けた活動やその効果、改正風営法施行に伴うダンス文化の普及、PD部門の組織や活動に向けての方針が示されました。

続いて、秋田幸子ダンス開発本部長及び中道俊之普及本部長から非競技視点からの取組みについて解説があり

ました。また、村上喜一郎法制部長からは、個人情報保護規程の制定と10月1日からの施行について説明がありました。仲野巽特任顧問から著作権問題への対応としてJASRACとの包括契約には至らず従来通りという解説がありCDプロジェクトでは引き続き著作権フリーの制作を続けるなど最終対応の説明が行われ休憩に入りました。

休憩後は、金子和裕常務理事からは事業報告や財務委員

会の報告、11月13日の都道府県対抗戦（岩手県花巻市）に合わせて全国代表者会議を開催する旨の報告があり、内山雅允事務局長から平成27年度決算報告の説明、中道俊之構造改革委員会の報告等がありました。その他、金城庸夫特任顧問からWDSF教本の完成報告や、蒲生志津雄競技部長からDSCJ数字級の体系見直し（6階級から3階級へ）等の最終案の説明などがあり質疑に入りました。DSCJの競技運営等については、今後も検討したいなど山田淳専務理事や山口剛競技本部長、仲野巽特任顧問からの発言があり、懇親会でも意見交換は続きました。



村上喜一郎法制部長



熊本地震義援金募金箱



ジャストフィットエンビ

最軽量&ストレッチで
フィット!!

大絶賛!
人気商品

芯地を抜いて
胴体にもフィット!!

袖幅は極限まで
絞込みフィット!!

既製品

¥145,000(税別)

のところ、JDSF会員価格

¥130,500(税別)

にて販売しております。

※詳しくはJDSF HP内
申込書をご確認ください。

¥145,000(税別)(既製品)

上下・カマーバンド・ポケットチーフ付

¥160,000(税別)(イージーオーダー)

サイズ(9サイズ):YAM~LL AM~LL ABM~ABLL

JDSFスタンダードA級
菅原一樹



東京・秋葉原 東京トリキン(株)

エンビのトリキン

TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1 <http://www.torikin21.com>

営業時間/月~金 10:00~18:30 土日祝 10:00~17:30

平成28年度定例理事会

5月29日（日）、14時から東京ファッションタウンビル研修室において開催されました。山田淳専務理事から、国内のダンススポーツの更なる発展と統括強化のため、PD本部及びボールルームダンス本部の設置とそれに伴う諸規定の制定について議案の説明があり承認されました。これによりPDは、従来の「プロフェッショナル・ディビジョン」から「プレミア・ディビジョン」の略号として用いることになります。

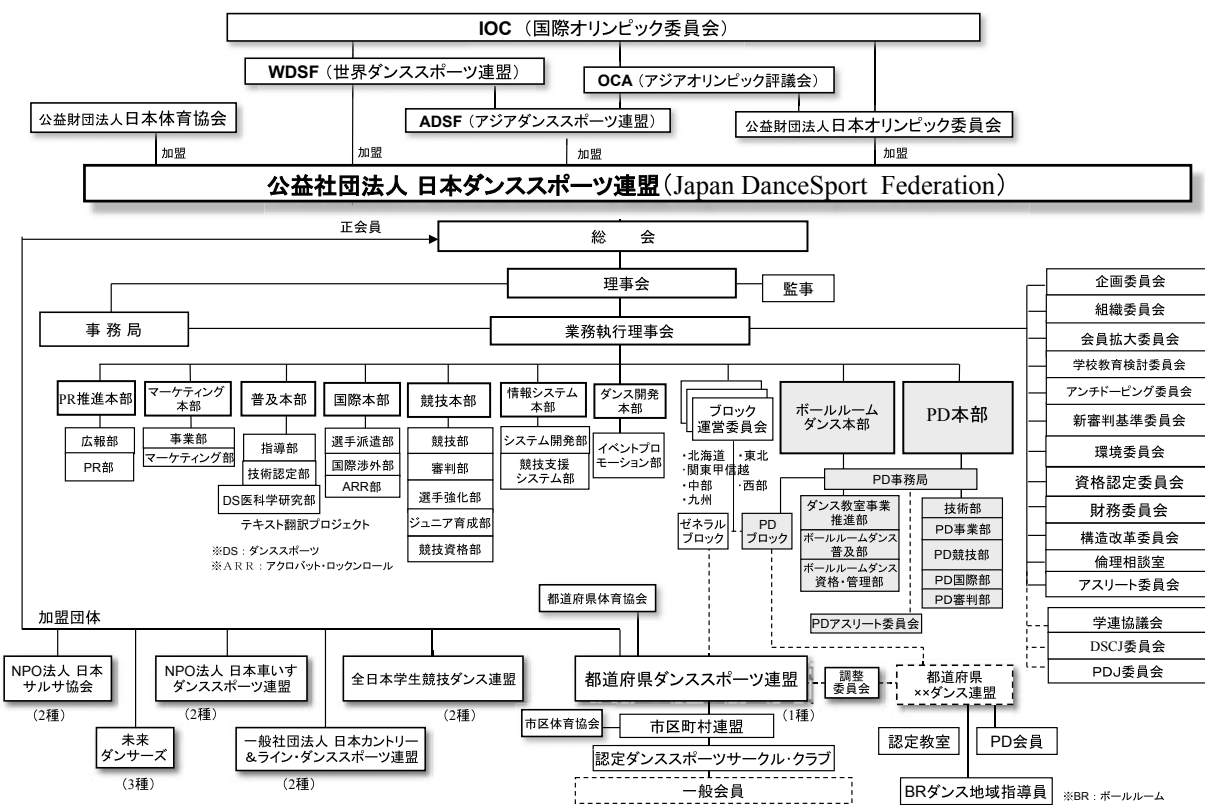


理事会風景



公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟 組織図

平成28年5月28日改正



★ビジョン2024（特別重点項目） JDSFでは現在特に以下のことを重点に進めています。

- ①ダンススポーツのオリンピック正式種目化推進
 - ・弱点の克服、開催国支援、選手強化
- ②風営法改正にともなうダンス文化の再構築
 - ・非競技系の日常的ダンスの場の振興、飲食店／エンタテインメント系企業とのコラボレーション
- ③ダンススポーツとして他ジャンルダンスとの融合
 - ・ダンス全体の振興、コラボレーションと若年層の取組み
- ④従来型教室以外のダンス職業への道筋を開拓
 - ・新型教室事業の開拓、段階的教育メソッド（評価基準、テキスト）開発、選手のセカンドキャリア支援、ステージ・ダンスへの道筋開拓
- ⑤超高齢化社会に対応した医療費削減貢献（健康寿命延伸効果）
 - ・プログラムの策定、エビデンス取得、学会／行政とのタイアップ
- ⑥日本のダンススポーツ組織の集大成推進と国体参加の準備
 - ・アマプロ組織の融合、PD事業の活性化

米子高専の体育授業／社交ダンス実施レポート

鳥取県ダンススポーツ連盟会長 前田 博



鳥取県にある国立米子工業高等専門学校の体育の授業で社交ダンスを行いました。5月18日から6月15日まで計4回各々約70分、男女同数クラスを2つ、計86名が参加しました。この授業の趣旨は、学生が国際的な交流をするための社交ダンスを身に付けさせたいというものです。しかも最大限でも4回しか授業が取れません。かなりハードルが高い要求です。この取り組みは必ず成功させたいと考え西部ブロックに相談し、天道貞一氏（ブロック長）を先生役として「ワールドスタイルダンス」で進めることにしました。

先ず、5月11日の事前オリエンテーションで、私が、学生に授業の趣旨を説明しました。

第一回目の授業は、NHKはじめ放送4社の取材がありニュース等で放映されました。これは、町の人たちの話題になったようです。始めに若手の小田剛・入江渚組にラテンデモを行ってもらいました。女の子が自分たちと同年代の高校2年生だと説明があると、学生から「へー」という声がでました。天道氏の講習は、ブルースとジルバで始まりました。ステップは、常に横にとります。前には相手がいるのでステップしにくいからです。第2回目は、高木島根県DS連盟副会長が第1回目の復習をしました。第3回目は、天道氏がブルース・ジルバの進行具合を見て、マンボやキューバンルンバと構成が同じで応用が広いサルサを習いました。最終回は、ヨーロッパの視察から帰ったばかりの天道氏が「ドイツやオーストリアも皆さんと同じ踊り方で習っています」と報告して始まりました。3種目を復習した後は、ヴィーニーズワルツを習い、これで、ほとんどの音楽に対応できるはずでした。まとめとして、学生たちが各自で自由にパートナーチェンジをして踊り、アンケートを実施して終了しました。

学校授業の難しさは、学生が希望して受講するのではないことです。特に日本人は、男女が手を繋いだり、体を接することに慣れていません。人によっては嫌悪感を抱く人すらいます。そこで必要なことは何でしょうか。天道氏は、記者の取材に「楽しんでもらうことが一番大切で、先ずは音楽に慣れることです。そして、レディファーストで相手を大切に扱うエチケットとマナーを学ぶ、それで国際人としてもう恥ずかしくありません」と説明され、授業でも「男性は女性を大切に扱ってください」と強調されていました。男性がリードし女性がフォローする、このとき、男性が自分の我儘勝手を女性に押し付けてしまいがちです。また、今の若い人は、相手に受け入れられないことに非常な不安を感じます。そういう不安を除くために、先ず、エチケットを教えないけません。

学生のアンケートでは「音楽に合わせるのが楽しい」94%、「異性とダンスをして楽しい」93%、「エチケット

が役に立つと思う」94%、「今後もやりたい」91%と全般に非常に好評でした。自由記載でも「楽しかった」が一番多く、さらに「敬遠していたがやってみると楽しかった」「やる前と後では印象が変わった」という意見。そして、男女とも「異性と話せるようになった」「クラスが盛り上がった」という効果が挙げられていました。「社交ダンスの才能を見つけた」などという頼もしいものもありました。私は、今回は、学校側の要求にも応え切れたし、我々としても大成功だと思っています。また、授業における補助者の役割という課題点も見つかりました。会員などに補助をお願いすることは良いことです。しかし、補助者が個別に教え始めて、天道先生の話聞いていないという弊害が出ていました。また、「教える」ことにより、学生が傷ついているようにした。教えることは、親切心であっても相手の人格を傷つけることがあります。授業では「みんなの前で叱られた」と受け取られかねません。また、足型は極力教えません。ターンをして、向こうのほうに行ってしまった人に、天道さんは「相手の顔を見なさい」と言います。すると、たいていの子は、ちゃんと元の位置に帰ってくるのです。「軸足を置いておいて、180度回って」と足型を教えるのではなく、その人の感覚で踊れるように身に付けさせるのです。このことは、目から鱗が落ちたような気がしました。

今回の授業は、米子高専は、国際化に向け全国の高専で初めて社交ダンスを取り入れるという授業に特色を出す意図があり、私たちは、学校教育に社交ダンスを取り入れて欲しいという願いがあり、両者の思惑が一致した結果に実現しました。関係頂いた、米子高専の方々、天道さんをはじめJDSFの会員の皆さんに厚く御礼を申し上げます。今後は、この成果をもって、他の学校にも働きかけていく考えです。それには、鳥取県にワールドスタイルダンスのマインドと教えるノウハウを持った指導員を増やしていく必要があります。そのために会長の私が先頭に立って、勉強していきたいと思っています。



▲講習風景
▼小田剛・入江渚組のデモ

ダンススポーツグランプリ in 大阪

2016年5月15日(日)／不死王閣グリーンホール

5月15日(日)、大阪府池田市にある不死王閣グリーンホールにおいて2016ダンススポーツグランプリin大阪(グランプリ大阪)が開催されました。不死王閣は、大阪の中心阪急梅田駅から阪急電車で池田まで約20分、池田駅から車で15分、都会の喧騒から離れた閑静な山の中の温泉地でかつてのボーリング場を改装したホールです。天道貞一実行委員長(大阪府DS連盟会長・西部ブロック運営委員長)は、「昨年のグランプリ大阪から利用しています。多少施設は古いですが、それまでの会場に比べて非常にコストも安く、時間などの制約も余りなくて助かります。全国の選手や応援の皆様にも温泉も楽しんでいただけるし、来年もここで開催する予定です。」と話されました。

グランプリ大会は北海道(札幌)、東北(仙台)、中部(静岡)、西部(大阪)、九州(別府)の各ブロック持ち回りで開催され、東京で開催される三笠宮杯を加えた各大会の成績を総合

し、上位2組が来年度のWDSF世界選手権等の国際競技会に日本代表として派遣されます。

熊本地震により、4月17日の九州(別府)グランプリが中止されたため、本大会は事実上、本年最初のグランプリ大会となり、ハイレベルな大会となりました。

グランプリスタンダード競技は、上位4組の大接戦となりましたが、本大会を目指し体調を整え全力で戦い続けた小嶋組が、得意のタンゴ、クイックステップで差をつけスローフォックストロットでもトップの得点を重ね見事に栄冠を勝ち取りました。ワルツとヴェニーズワルツで1位を獲得した八谷組が準優勝となりました。



真剣なまなざしで観戦する観客たち



優勝

グランプリ スタンダード

小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)

二人は同じ幼稚園(ヒルズ学園幼稚園)出身の24歳と23歳。カップル歴は12年、2010年中国広州開催のアジア大会(銅メダル)で既に日本代表チームジャパンに選ばれた若きエース(当時盛田さんはチームジャパン最年少17歳高校生でした)。2012年東アジア大会でも銀・銅メダル獲得。昨年の沖縄グランプリに続く優勝! 大阪でも初優勝に輝きました。小柄ながらスピード溢れる日本を代表する選手です。「今大会のように日本のトップクラスが勢ぞろいしたグランプリで優勝でき、表彰台の頂上に上がった気持ちは最高です。海外の大会と異なり日本の皆様のいつもの温かい声援を頂き、嬉しかったです」



準優勝

八谷和樹・皆川 円組(千葉県)



第3位 大西大晶・大西咲菜組
(ブルボンDST/富山県)



第4位 久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組(北海道)



第5位 山田恭平・秋山彩織組
(東京都)



第6位 寒河江貴大・熊本美和組
(埼玉県)



優勝

増田主馬・増田陽子組(大阪府)

B級戦 スタンダード

表彰式



優勝

照屋一茶・嘉陽田亜純組(沖縄県)

B級戦 ラテン

表彰式





優勝

シニアI選手権ラテン (世界シニアI選手権ラテン選考競技)

名越慎悟・名越明子組 (神奈川県)

37歳と今年30歳のまだ若きシニアカップルです。「シニア世界チャンピオンはもちろん、オープン戦でも活躍できる選手目指して頑張ります」



準優勝

佐藤寿一・佐藤美奈子組 (岡山県)



第3位 河野弦二郎・河野サヨ組 (大阪府)



第4位 宗形隆史・宗形葉子組 (埼玉県)



第5位 永井孝明・永井優子組 (茨城県)



第6位 大矢部廣昭・中川弘美組 (大阪府)



第7位 藤田洋一・寺川秀代組 (兵庫県)

ジュニア スタンダード

濱田琉衣・稲村百香組 (ブルボンDST / 栃木県)

15歳同士の二人。「昨年の三笠宮杯から出場しています。国際大会にどんどん挑戦したいです。目標はジャーマンオープンでファイナル目指します」



優勝

準優勝

五月女光政・五月女睿佳組 (栃木県)



表彰式

ジュニア ラテン

五月女光政・五月女睿佳組 (栃木県)

13歳と12歳の兄妹カップルです。「今日はリラックスして踊りました。さらに練習してジュニア戦さらにユース戦にも出場して活躍したいです」



優勝

準優勝

濱田琉衣・稲村百香組 (栃木県)



表彰式

2016年3月13日(日) / 山梨県小瀬スポーツ公園体育館

第31回山梨県ダンススポーツ大会は348組がエントリーし、開会式に始まり、9時45分から競技は開始されました。山梨県と言えば、世界文化遺産の富士山だけではありません。山梨は年間降水量が少なく日照時間が日本一として有名。夏は暑く冬は寒い。四季のメリハリがはっきりしていて河口湖や昇仙峡など自然の景勝地にも恵まれ、富士急ハイランド等の遊園地の設備も整っています。また、葡萄の産地でワイナリーも多く、大人も子供もたっぷり楽しむことができます。

山崎幸明会長は挨拶に立ち、山梨県は昨年ノーベル医学生理学賞を受賞された北里大学大村智特別荣誉教授の出身地で盛り上がっていることや、2014年に受賞された

青色ダイオードでノーベル物理学を受賞された名古屋大学天野浩特別教授の公演会にも触れ、「ノーベル賞を考えると子どもの時からダンスはやったほうがいい」という天野先生の言葉も紹介されました。

今回、山梨県では初めてジュニアのソロ競技が開催され、スタンダードは馬谷真利亜ちゃん(神奈川県)が優勝、ラテンは矢崎響ちゃん(山梨県)が優勝しました。注目の山梨県知事杯はスタンダードが関口直弘・平野みずえ組(静岡県)、ラテンは小宮裕壺・中村ひなの組(山梨県)に輝きました。



山崎幸明山梨県DS連盟会長



山梨県知事杯 B級戦スタンダード

優勝 関口直弘・平野みずえ組(静岡県)



表彰式



山梨県知事杯 B級戦ラテン

優勝 小宮裕壺・中村ひなの組(山梨県)



表彰式



シニアIVスタンダード

優勝 萩原 憲・磯野裕貴子組(神奈川県)



表彰式



シニアIVラテン

優勝 小林和幸・秋山たみ子組(山梨県)



表彰式

ソロ スタンダード表彰式
(右端が優勝した馬谷真利亜選手)ソロ ラテン表彰式
(右端が優勝した矢崎響選手)

ジュブナイルスタンダード(W・Q)

優勝 小澤玲音・和田小桜組(山梨県)



表彰式



ジュブナイルラテン(S・C)

優勝 ベルティス ダイキ・堀井香葉子組
(山梨県)



表彰式



ジュブナイル(メレンゲ・サルサ)

優勝 吉岡栄太・堀井日葉子組 (山梨県)



表彰式

山梨県のジュニア事情

山梨県ダンススポーツ連盟常任相談役 里吉 美雅

山梨県では、ジュニア育成に力を入れるために、5年前から春と秋の大会には必ず子どもの競技区分を設けております。今回は新たに単科戦としてワルツ、サンバのソロ競技、ジュブナイルのスタンダード、ラテン及びメレンゲ・サルサの5区分としました。県外からの選手が少なくちょっと盛り上がりに欠けましたが、その分私たちが指導している選手が4つの区分に優勝することが出来ました。私たち子どもダンスは平成21年にスタートし、JDSF山梨の役員が中心になって運営・指導をしています。サークル名は「キラキラ☆ピーチキッズ山梨」。4歳児～15歳まで幅広く25名の子どもがおります。

指導については、毎週土曜日午前中南部市民センターで講習会や練習会を指導員2名とスタッフ3名でやっております。挨拶から始まりストレッチ体操、輪になってリズム体操、メレンゲやサルサ、さらにラテンの立ち方、各種ウォーク、ヒップの動かし方、フリーハンドの動き、足部の上下運動、8の字運動、ホールド、ボックスワルツなど、その後St、Laをそれぞれ1～2種目ベーシックを中心に練習します、競技会が近くなるとリハーサルと



子どもダンスうんどう

して出場種目の踊り込みを行います。子どものレベルを少しでも上げるためには指導者の技術力向上はもちろん、何といっても情熱のある熱心な指導を実践することが大切です。団体レッスンでは限りがあり一人ひとりと向き合えずどうしても一方通行になってしまいます。試合に出場することは出来ても結果を期待することはなかなか難しいです。そこでプライベートレッスンとなりますが週に4日間程出場する子どもを中心に指導しております。

6月11日(土)、北海道のダンスうんどう塾の小林英夫先生から講習会を受ける機会を得ました。全員参加で昼食をはさんで4時間バッチリと、輪になって準備運動、メレンゲは各種ラテンの基本動作のため長めにやり、午後はチャチャチャとルンバのヒップムーブメントや6歩の回転動作等をやりました。皆さんとても楽しく笑顔一杯飽きる子もなく本当に有意義な講習会でした。有り難うございました。

最近、我がサークルにもちょっとしたトラブルが起きています。ダンススポーツは男女のカップルで踊るのが正式ですが男の子が少ないため女の子同士のカップルも多くなります。試合の都度カップルを代えて出場しますが、これがかなりの問題になっております。あの子と組むのは嫌だとか、男の子のステップはした

くないとか、もちろん親御さんの意見が強いようで、小さいうちはまだ良いのですが大きくなると特に要望が強くなり、なかなかうまくゆきません。技術的な問題もありますが、挨拶、マナー、しつけ、態度、思いやりの心など、ダンスが上手になるための大きな要因です。しっかり向き合いながら子どもたちが更に成長し素晴らしいアスリートになることを期待します。

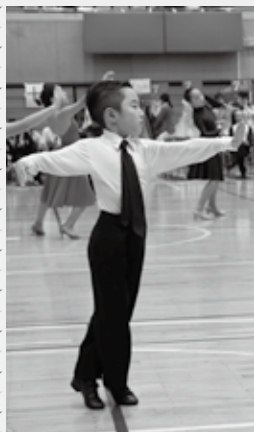
★キラ星み～つけた!★

吉岡英太君(6歳)
ピカピカの小学1年生(山梨県)

4歳の年少さんからお祖父さんの山梨県DS連盟副会長三井猛雄さん御夫妻に連れられて子どもダンスうんどうに参加、踊る楽しさにすっかりハマりました。ソロ競技では観客の視線を一点に集めて楽しそうに踊る姿が印象的。好きな種目はワルツとクイックステップ。これからの成長が楽しみです。



東京体育館を訪れた山梨県DS連盟副会長三井猛雄さん御夫妻のご家族





4回目のイタリア海外合宿

イタリア合宿チームリーダー 仲野 巽

4回目の海外合宿

海外合宿を始めてから今年で4回目になります。海外旅行には色々なハプニングがつきもので、20人位のチームとなるとそう簡単ではありませんが、参加する選手たちの熱意と世界レベルの選手育成という選手強化部の方針、そして受け入れてくれるイタリアのチーム・ディアブロの協力が一つになって、毎年実施することになりました。今年は、学校、会社の休暇が取りやすいゴールデンウィークで、しかもこのタイミングで現地で競技会がある時期を選んで、4月27日から5月6日といういつもより長い期間の合宿になりました。計画としては、到着翌日の28日から30日までの3日間が後述するマッチアナリシス参加とレッスン、5月1日に現地の競技会参加、2日から4日までの3日間がレッスン・トレーニングなど。そして5月5日現地出発、6日帰国の日程です。



羽田空港国際線出発ロビーで

最初からハプニング！英国航空のシステムトラブル！

現地到着を明るい時間帯にという意図もあって、今回の羽田空港出発時間は8:50という朝になりました。従って空港集合は2時間前の6:50、大変早い集合になって前泊者もありましたが、集合時間には全員元気に顔をそろえました。ところが、いざチェックインの段階でハプニング発生！エアラインは英国航空だったのですが、そのチェックインシステムがトラブルでダウン。この時、搭乗者16名のうち、トラブル前にチェックインを済ませたのが5名で、この5名はすんなりとチェックインして待っていたのですが、トラブルに巻き込まれたのが11名。待つこと約40分でやっとチェックインできました。渡された搭乗券は手書きのもので、手書きをもらったのはこの時が初めてです。イタリア・ボローニャ空港までの乗継搭乗券が羽田では発券できず、乗継空港のロンドン・ヒースローで乗継手続きをすることになりました。このトラブルで、飛行機は1時間以上大幅に遅れて出発することになりました。

ロンドンまでの10時間くらいのうちに取り戻せないかと思ったのですが、取り戻しもならず13:00予定が約1時間遅れて、14:00過ぎに到着。羽田で乗継搭乗券をもらっていた5名は、すんなり14:55発の乗継便になれたのですが残りは乗継カウンターで再度チェックイン手続きをしなければならず、わずかの差で予定の便に乗ることができませんでした。結果は、次のボローニャ行のBA便に乗ることはできたのですが、次の便はなんと、6時間後の20:50発！6時間近くヒースロー空港で待機を余儀なくされました。ボローニャ空港から合宿地のモリネッラまでは貸切バスを手配していたのですが、6時間遅れの後続グループのために、

バスをもう一往復頼まなくてはならず、またイタリアの宿泊アパートへの時間遅れ連絡など、この待機時間を使って帯同役員は連絡作業に汗を流すことになりました。(帯同役員はつらいよ！😓😓)

ディアブロのアパート

チーム・ディアブロは、イタリア北部の主要都市ボローニャから車で20～30分の人口2万人弱のモリネッラという小さな町にあります。その町の中心から少し離れた住宅にまじって倉庫などもある地域に5つの建物があり、それがディアブロの本拠地です。ヒースローで6時間待機して、11名が次のフライトでボローニャについたのは、午後11時過ぎ。追加依頼した貸切バスでディアブロ・アパートに着いたのはすでに夜中12時を過ぎていました。今回は総勢18名。1人(菅原一樹選手)はすでに現地のアパート住まいですので、17名全員がメインフロア隣接のアパート6室に入ることができました。アパートは小さなキッチンと冷蔵庫つきで、自炊が原則です。各自、日本から持ち込んだ食材で調理したり、カップ麺などのレトルト食品で生活します。近くに雑貨屋があり、また徒歩10分くらいのところにスーパーもあるので、時間を見ては適当に買い出しに行くことになります。

進化するディアブロのトレーニング

チーム・ディアブロのトレーニングは、ダンス技術のトレーニング、レッスンはもちろんですが、その他、今のWDSF競技会で勝つための幅広い種類のトレーニングを実践しています。最近のWDSF競技会は、一層スポーツ性を追求しています。それはスピードとスピードの変化(加速・減速)、運動量の増加、脚部だけでなく体全体、ボディ、ショルダー、ヘッド(男子も)のスピーディーで大きな運動量、さらに瞬発力、持久力、柔軟性など身体能力の向上は不可欠な条件になっています。このために、ディアブロでは“ランボートレーニング”と称して、専用のフロアで筋力トレーニング、瞬発力トレーニング、バランスカトレーニング、持久力トレーニングなどを実施しています。今回、特に注目したのは時系列データによるトレーニング指導です。昨年9月の海外合宿で測定した身体能力データと今回の測定値を比較して、どう変化(改善)しているか、どこが次の改善ポイントか、カップルのバランスはどうか、カップル間でどう改善すべきか等のポイントを、ダンススポーツを知っている専門家(ディアブロでは選任トレーナーのマルコ・カバチーニ氏が指導しています)からアドバイスを受けることができる点です。ランボー以外のトレーニングとしては、スタンダードとラテンに分けて脚部・体幹強化と踊り込みのパフォーマンストレーニング(一昨年からJDSFでも取り入れて、今は毎週2回DTCで実施しています)、毎週月曜・



“ランボー・トレーニング”風景

水曜夜にジュニアから世界チャンピオンまで参加して盛り上がるコンペティション・スタイル・プラクティス(模擬コンペ)など。また、大会議室ではファビオ・ボスコによるWDSFテキストの解説や、ベネデットとクラウディアによる最新テクニックの解説など最新技術のレクチャーがあります。日本人には言葉の問題で少し難しいのですがメンタルトレーニング(ディアブロでは心理トレーニングと言っている)など、豊富なメニューをそろえています。単にダンス技術の練習だけではないところが、ディアブロが世界最強チームになった理由だと思います。

マッチ・アナリシス

ディアブロでは、この5月に毎年“マッチ・アナリシス・セミナー”というユニークなトレーニングイベントをやっている。欧州各地から選手やそのコーチたちが大勢集まってきました。わが日本チームもこれに参加することになりました。マッチ・アナリシスとは、WDSF審判システム2.IJS2.1の方法で、全員全種目ソロで踊り、12か国のジャッジが4つのコンポーネント(TQテクニックの質、MM音楽に対するムーブメント、PSパートナーリングスキル、CPプレゼンテーション・コリオグラフィー)ごとに10点満点評価をするというものです。



マッチアナリシスで踊る
鈴木奨太・森田舞夢組



五月女光政・睿佳組

点数評価と共に、改善すべきポイントにマークが付けられて、結果シートは踊り終わるとすぐに印刷されて選手に手渡されます。選手は、WDSF審査基準から見た自分の課題を知ることができて、改善ポイントを絞ることができるので大変好評です。WDSFは従来の相対評価、スケーティングシステムによる審査方法が、意図的・政治的な審査の影響を受けやすいということで、世界選手権、グランドスラム、ワールドカップなどの大きな大会の審査はJS2.1にしてみました。また今後ワールドオープンにも適用拡大されるのではないかなという話もあるようです。ディアブロでは、このJS2.1に沿った評価を選手たちに実感してもらって、競技力を向上、成績向上の試みを始めていることはすごいことです。常に競技会の変化に対応して進化しています。JDSFでもこのような方法も取り入れて、より実践的なトレーニング方法を行っていいと思っています。

トロフェオ・ローコスト競技会

合宿中日となる5月1日、モリネッラから南東に車で約1時間のラヴェンナという町で、ディアブロが年に数回開催している“Trofeo Loecost”競技会(ローコスト・トロフィー競技会)が開催されて、全員で参加しました。ローコストの名前の通り、



競技会場のラヴェンナ・スポーツセンター

催している“Trofeo Loecost”競技会(ローコスト・トロフィー競技会)が開催されて、全員で参加しました。ローコストの名前の通り、

いくつかの区分に出ても1組€30と安く、良い競技会を安く提供という思想でダビデ・カチアリが始めたようです。ジュニアからシニア、PD競技も含めて多くの区分が行われて多くの選手が参加していました。ただ、我々が出場できる競技は、16才以上のオープン・スタンダードとラテン、15才以下のオープン・スタンダードとラテンのみです。イタリア国内の他、ドイツ、ロシア、モルドバ、エストニア、ルーマニア、フランスなど多くの選手が出場しました。特に16才以上のオープン・スタンダードは世界ファイナリストのニコライ・ダリンとナタリア・セレディナや先の東京オープンで優勝のアンドレス・リーフとクリスティン・ヴァハなども出場して、かなりハイレベルのコンペとなりました。15才以下のオープン・スタンダードとラテンでは、スタンダードでわがチームの濱田琉衣・稲村百香が優勝、五月女光政・睿佳組が3位。ラテンで五月女光政・睿佳組が優勝、濱田琉衣・稲村百香が4位と大活躍でした。さて、翌日の月曜からの3日間は、マッチアナリシスと競技会参加で集まっていた各地の選手たちも帰って、落ち着きを取り戻した各会場で、じっくりレッスンとトレーニングに励みました。

帰国

あっという間にモリネッラでの10日が過ぎて、帰国の日になりました。帰りも貸切バスでモリネッラからボローニャ空港へ。今回も数えきれない貴重な経験をした合宿になりました。合宿環境が整った素晴らしいディアブロの合宿所には感謝、感謝です。この合宿を続けることによって、目標の世界ファイナリスト育成に必ず近づくことを実感した合宿でした。来年もまた必ず来ます!!



競技会が終わって、日本チーム



ガブリエル(髪を短くした)のレッスンを受ける八谷・皆川組



ほっと一息、帯同役員の仲野正子、仲野翼、吉田大治郎



夕方からのコンペティション・プラクティス(ベネデット&クラウディアと一緒にシャドーで頑張る徳野夏海選手)



最終日、全員で打上げ夕食

第1回 全日本シニア10ダンス選手権

2016年5月8日(日)／京都府立伏見港公園体育館

京都府ダンススポーツ連盟 理事 谷口小夜子

「何時かは10ダンサー」。競技ダンサーの憧れである10ダンスのシニア戦が「千年の都 京都」にて開催されました。世界中で行きたい都市第一位である京都の南に位置し、歴史と縁のある宇治川沿いの伏見港公園で熱い戦いが行われたのです。

この大会は2016年「WDSFシニア I 10ダンス世界選手権」と、「WDSFシニア II 10ダンス世界選手権」の日本代表選考会となっており、「シニア I 10ダンス世界選手権」は10月9日、アメリカのボストンにて開催予定で、決勝入賞者がその出場権を獲得できます。「第2回シニア II 10ダンス世界選手権」は10月30日、スペインのプラヤダロにて開催予定で、試合参加者が出場権を獲得できます。

去年、フランスのニースで行われた「第一回シニア II 10ダンス世界選手権」に各国から72組参加、日本から10組の選手が参戦した事により日本でもシニア10ダンス選手権の希望が多くなり、京都府DS連盟がその開催に名乗りを上げました。

折角開催するのであれば！と各試合会場で10ダンスが踊れそうなダンサーに声掛けをしていきましたが多くの方が興味を持ち、次にお会いした時には「10ダンスに出る為にジャイブを練習しています！」と、ラテンを踊ったのを見た事のないスタンダード選手が新たな挑戦をしていたり、燕尾服を着たのを見た事のない選手が「ヴェニーズとクイックの練習をしています！」と嬉しい声を沢山聞くようになりました。

10ダンスは世界ルールで4ラウンド40曲迄とされていますが、1次予選はやりたいね！と言っておりましたところ各地から40組のエントリーがあり、シニア世代の元気な事を大変嬉しく感じました。

運営ですが、試合当日は遠方からの選手の為に締め切り時間も10:30にし、フロアサイドに10ダンス選手専用着替えスペースも参加人数分用意をしました。



開会式

同時に「京都府ダンススポーツ競技会」もありましたので、着替えの時間も約30分以上設けてのタイムスケジュールを組みました。

そして試合当日はお天気にも恵まれ、6:45



谷口夫妻

役員集合から始まり会場設営も順調に進み、早朝から10ダンスの選手も続々と会場入りをして来ました。

「シニア10ダンス」は11:10ラテン5種目4ヒートからの始まりです。

会場は参加選手や有名選手目当ての観戦の方ではほぼ満員となり、12:15からのスタンダード5種目も含め、特選した素敵な音楽と共に1次予選から大盛り上がりとなりました。

その後に行われた参加選手全員による入場行進は見事でした！

京都府DSC所属の選手宣誓は恒例となっております笑いも入れる内容で、寺田屋も近くにある所から坂本龍馬とお龍の名前を入れての選手宣誓となり会場を沸かせました。

入場行進後は「シニア10ダンス」参加者全員で新しく作った横断幕を掲げての記念撮影、皆さま満面の笑みで華やかで良い写真となりました。

二時予選には25組が上り、準決勝には12組2ヒートで戦いました。

この頃には会場から手拍子もでて、選手と観客一体でダンスを楽しむようになりました。

そして決勝戦へは7組、スタンダードからのスタートです。

会場は選手のアピールや応援や手拍子も最大になり、選手はスピードが落ちることなくラテンに入り、パソ・ドブレは第3ハイライトまで踊って下さり無事に40曲を

踊り切りました。

オナーダンスは準優勝者のタンゴと、優勝者のサンバに加えアンコールのチャチャチャを踊って下さり大盛況の中閉会となりました。

会場では参加選手から「とっても楽しかった！ 又来年参加するね！」と沢山お声を掛けて頂き、この試合がシニア界の活性化になった事を確信致しました。

役員一同「おもてなし」の心で、来年又京都でお待ちしております。



10ダンス出場全選手



優勝 名越慎悟・名越明子組 (神奈川県DSC)

今日は第1回目なので優勝をねらってました。リーダーは京都出身なので、ことのほか嬉しいです。スタンダードに不安はあったものの、しっかり踊れたと思います。この大会を機にシニア世代が盛り上がってくれたら嬉しいです。



表彰式



準優勝 小林潤一・青木奈美組 (中部地区DSC)



第3位 佐藤寿一・佐藤美奈子組 (岡山県)



第4位 永井孝明・永井優子組 (DSC・アドバンス)



第5位 藤田洋一・寺川秀代組 (サークル本部)



第6位 櫛間義則・林 深雪組 (サンデーダンスサークル)



第7位 森 晃士・森 仁美組 (三重県DSC)



全日本ダンススポーツ選手権10ダンス 2016

(2016世界10ダンス・世界シニアⅡ10ダンス代表選手選考)

2016年5月22日(日)／津島市文化会館

2004年以来10ダンス会場として親しまれてきた名古屋公会堂は老朽化による改修工事となるため、今年は愛知県津島市文化会館において開催されました。

いよいよこの大会で今年のWDSF世界選手権10ダンスの日本代表が決まります。また、世界シニアⅡ10ダンス代表選考会でもあります。

10ダンス選手権はスタンダード5種目、ラテン5種目の10種目総合で頂点を極めるのはたった一組。非常に体力的にも精神的にもハードな競技で、昨年は、いずれも10代の八谷和樹・皆川円組と大西大晶・大西咲菜組が全審判員全種目再スケATINGにより1位の数がわずかに上回った八谷組が優勝、という稀に見る熾烈な争いを演じました。今年はスケールの大きなダンスの前年優勝八谷組、シルエットが美しくすべての種目で実力発揮の準優勝の大西組、そして、久保田組は、昨年兄妹のカップルを解消した兄の久保田弓椰選手はロシアのセルミヤギナ ヴィクトリアさんと新カップルで昨年の沖縄開催の九州グランプリ初出場戦(スタンダード)準優勝。以上の3組に加え若きユース強化指定選手の金井大輝・甘利このみ組、田沢拓都・徳野夏海組も加わり全16組が出場し今年も大接戦が予想されました。1次予選、準決勝と八谷組、大西組、久保田組はすべての審判員から10種目すべてにチェックを得て決勝に進出する予想通りの大接戦となりました。決勝はスタンダードから実施されました。最初のワルツ(W)は

久保田組と八谷組が同点1位、八谷組がタンゴ(T)で1位、ヴェニーズワルツ(VW)は大西組が1位、スローフォックストロットは(F)八谷組が1位。クイックステップ(Q)は久保田組が1位となり、種目別の3位ま

では下記の成績となり大混戦、この段階では全く予想が困難な状況となりました。

いよいよ後半のラテンで

す。ラテンでも接戦は続きましたが順位にははっきりと差が出て、ラテンが得意の久保田組が5種目すべてに1位を獲得し優勝を決めました。八谷組が同じく5種目に2位で準優勝、大西組が同じく第3位となり上位3組を占めました。そしてスタンダード5種目ラテン3種目に4位を獲得した金井組が第4位、ラテン2種目に4位となりました田沢組が第5位、そして第6位は地元愛知県の星野組という結果になりました。



熊本地震義援金箱

	W	T	VW	F	Q
久保田組	1位	3位	3位	2位	1位
八谷組	1位	1位	2位	1位	3位
大西組	3位	2位	1位	3位	2位



優勝して大喜びの久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組とヴィクトリアさんのご両親と小林英夫先生(コーチ)



優勝
久保田弓椰・
セルミヤギナ ヴィクトリア組
(北海道)



準優勝
八谷和樹・皆川 円組
(千葉県)



全日本ダンススポーツ選手権 10ダンス

第3位 大西大晶・大西咲菜組
(ブルボンDST / 富山県)



第4位 金井大輝・甘利このみ組(群馬県)



第5位 田沢拓都・徳野夏海組(千葉県)



第6位 星野浩基・星野舞子組(愛知県)

久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組がWDSF世界10ダンス選手権の日本代表に決定しました。久保田弓椰選手は妹の久保田欄羅さんと幼い頃から全日本戦・グランプリ戦などに出場し数々のチャンピオンに輝き、全日本10ダンスでも2009年、2010年、2011年と2013年に優勝。三笠宮杯は前人未到の8連覇を達成しましたが直後に兄妹のカップルを解消。セルミヤギナ・ヴィクトリアさんも2014年の全日本10ダンスでヴァンクラシコフ・ロマン選手と出場し初優勝。過去のチャンピオン経験者同士による全日本10ダンス初出場となりました。正確な切れの良いフットワーク、適確な音楽表現、洗練された美しいプレゼンテーションと、特徴をいかに発揮した新カップル初優勝となりました。また、A級戦スタンダード優勝の古澤誠・緑谷朱三江組は、シニアIIスタンダードの2部門で見事に優勝を飾りました。

A級戦 スタンダード

優勝 古澤 誠・緑谷朱三江組（愛知県）
（シニアII選手権 スタンダード優勝）



準優勝
伊藤 茂・
伊藤千鶴組
（愛知県）



表彰式



シニアII選手権 ラテン

優勝 村上和穂・金子真弓組（愛知県）
（A級戦スタンダード3位・シニアII
選手権 スタンダード準優勝）



表彰式

シニアII選手権 スタンダード

表彰式



表彰式



C級戦 スタンダード



C級戦 ラテン



D級戦 スタンダード



D級戦 ラテン



B級戦 スタンダード

優勝 草間隆志・草間孝子組（愛知県）



表彰式

B級戦 ラテン

優勝 小川 明・杉浦節子組（愛知県）



表彰式



第36回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権



JDSF
Japan DanceSport Federation

The 36th Imperial Highness Prince Mikasa Cup All Japan DanceSport Championships

JDSFダンススポーツランキングポイント取得競技会
WDSF世界選手権代表選考

2016年10月9日(日) 8:45~20:00

東京体育館

◆JR総武線 千駄ヶ谷駅前
◆都営大江戸線 国立競技場駅前

全日本ダンススポーツ選手権PD

全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイル

JOCジュニアオリンピックカップ
全日本ダンススポーツ選手権ジュニア

第2回全日本サルサダンス選手権



舞い上がれ日本の頂点へ!
新しい歴史はこの舞台から生まれる

入場料/前売券(AA席、A席は座席指定)

一般●AA席 6,000円/A席 5,000円/B席 3,000円/C席 500円
会員●AA席 5,000円/A席 4,000円/B席 2,500円

※C券ではサブアリーナでの競技は観戦できません。AA券、A券、またはB券をご購入ください。

【入場券のお申込み】JDSF会員は各所属団体へ。

【一般入場券のお問合せ・お申込み】

大会事務局：公益社団法人日本ダンススポーツ連盟内「三笠宮杯実行委員会」

Tel:03-6457-1858 Fax:03-6457-1857

※電話でのお問い合わせは、13時~17時(土・日・祝日除く)にお願い致します。



ホームページ <http://www.jdsf.or.jp/>

10月9日のチケットはインターネットからも購入できます!

<http://pia.jp/t/> ☎0570-02-9999 **イープラス** <http://eplus.jp/jdsf/>

主 催：公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟(JDSF)／
公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団／東京都ダンススポーツ連盟

大会名誉総裁：三笠宮崇仁親王

特別協賛： **ブルボン**

特別後援：毎日新聞社

協 賛：養命酒製造株式会社／チャコット株式会社
チョイス・ロンドン・ジャパン株式会社

後 援：スポーツ庁(申)／東京都(申)／公益財団法人 日本体育協会(申)／
公益財団法人 日本オリンピック委員会(申)

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。



ブルボンは、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の活動を応援しています。

ダンス・ダンス・ダンス
第80号(SUMMER)

平成28年8月発行

■発行人／山田 淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)

■編集長／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)

■企 画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部

■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。